

御中

ドキュメント種: テンプレート制作(実践編)Vol.1
お得意様名:
システム名: EditionFlex V1

第一版 2010年 10月 5日
第二版 2011年 1月 17日

--	--	--	--	--

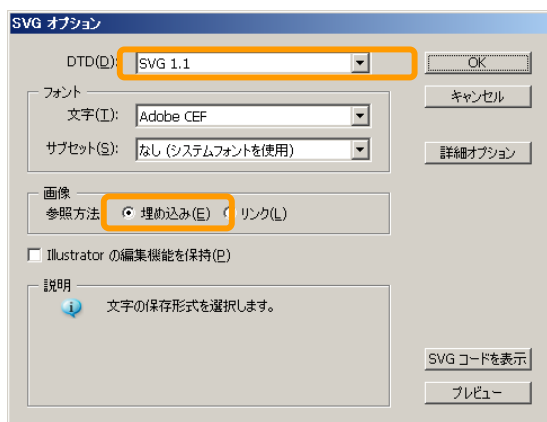
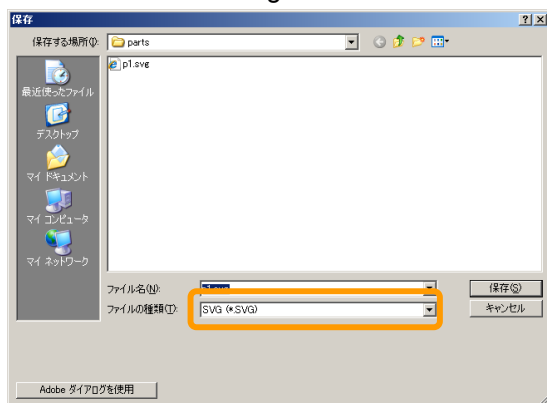


2 背景素材の作成

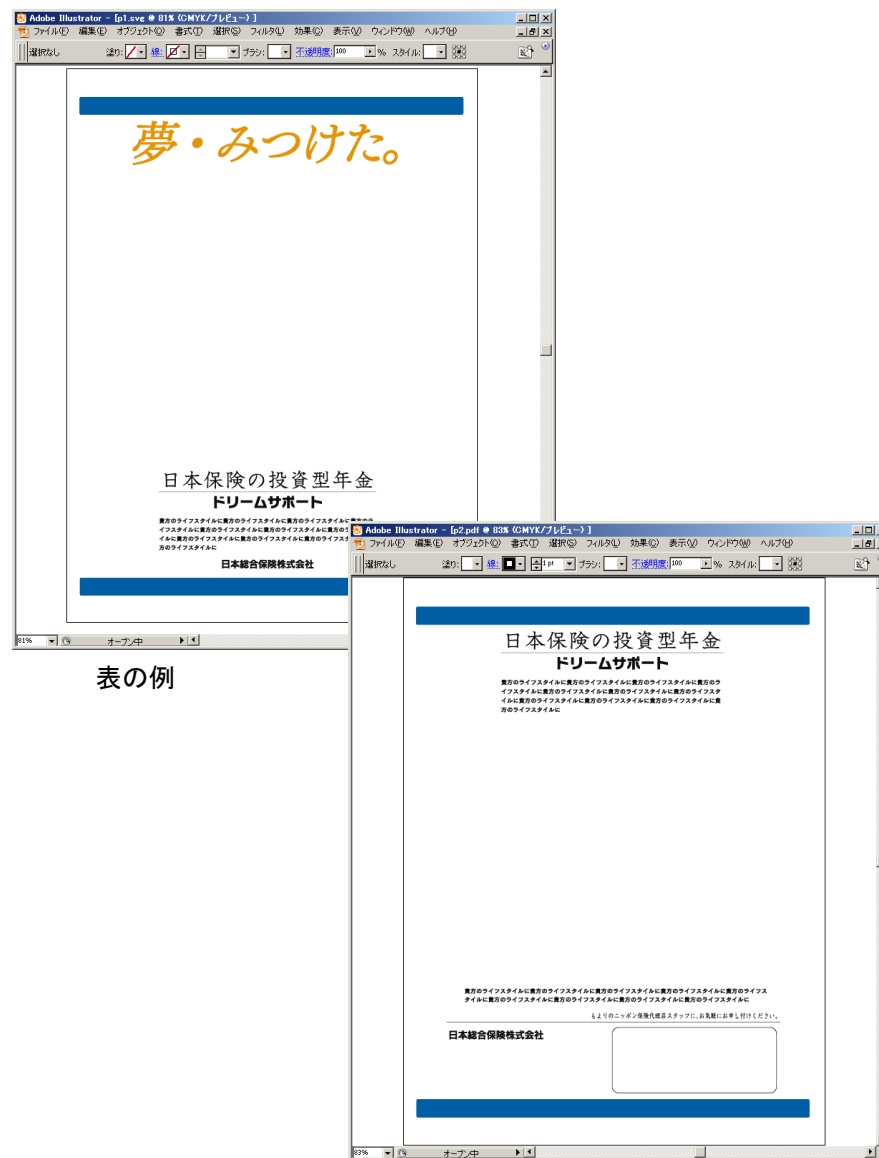
■ ユーザが編集しないパーツのみを、SVGに出力します。SVGに出力することで、Edition BackStageに取込みFlex上で素材として利用することができます。

■ 文字データはアウトライン化しておいてください。

■ Illustratorでは ファイル→別名で保存 ダイアログで ファイルの種類を SVGにします。(inDesignでも出力可能です。)



■ SVGオプションダイアログでは DTD はSVG1.1、画像の参照方法は埋め込みにしてください。



表の例

裏の例

3 画像素材

- 手元にある画像素材のサイズについて確認しておきます。
- この例ではillustrator上のメインビジュアルは、オリジナル画像を一時的にクリッピングしたもので、2つ用意したメインビジュアルそれぞれのサイズやクリッピング位置が異なります。
- 画像を差替える場合は同じサイズ(縦横比)でなければ、物理的に余白が生じてしまいます。
- 差替える画像は、あらかじめ、同じ縦横比にトリミング可能な場合は、トリミングしてからEdition BackStageに登録します。
- トリミングが不都合な場合には、オリジナルサイズでEdition BackStageに登録し、同じサイズの**カセットにレイアウト**することでカセットサイズでトリミングすることができます。
- illustratorのクリッピングパスをかけた状態の画像を、SVGに出力することで、クリッピングした画像をEdition Flex上で使えます。その方法は後述します。



手元のオリジナルファイル



手元のオリジナルファイル

4 BackStageにログイン

■ アカウントをお持ちのBackStageのURLにアクセスして、ログインしてください。

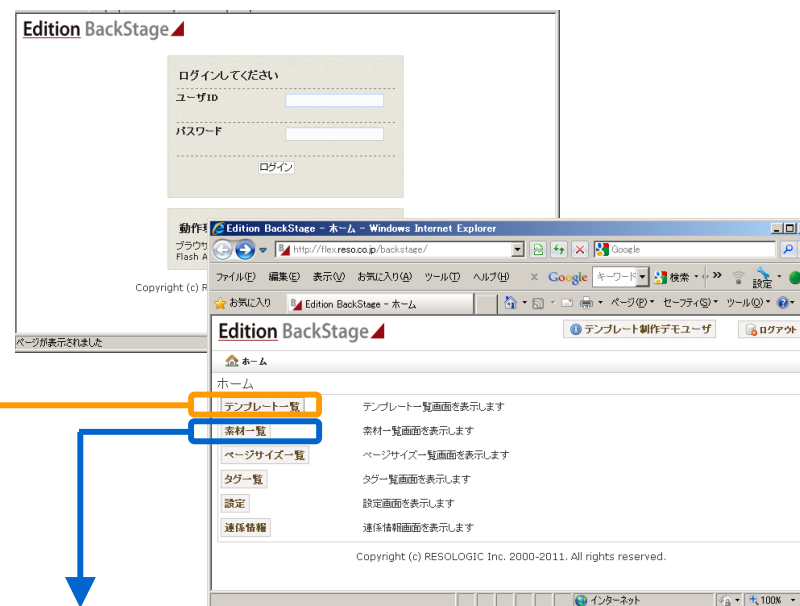
■ ホーム画面の **テンプレート一覧** と **素材一覧** からそれぞれの管理画面を表示し、テンプレートと素材の管理を行います。

■ 二つの画面は共通のフォルダ階層を表示しますが、テンプレート一覧の場合は素材は表示されません。逆に素材一覧の場合は、テンプレートやカセットは表示されません。

お使いの際に「今はテンプレート一覧か？素材一覧か？」を意識ください。

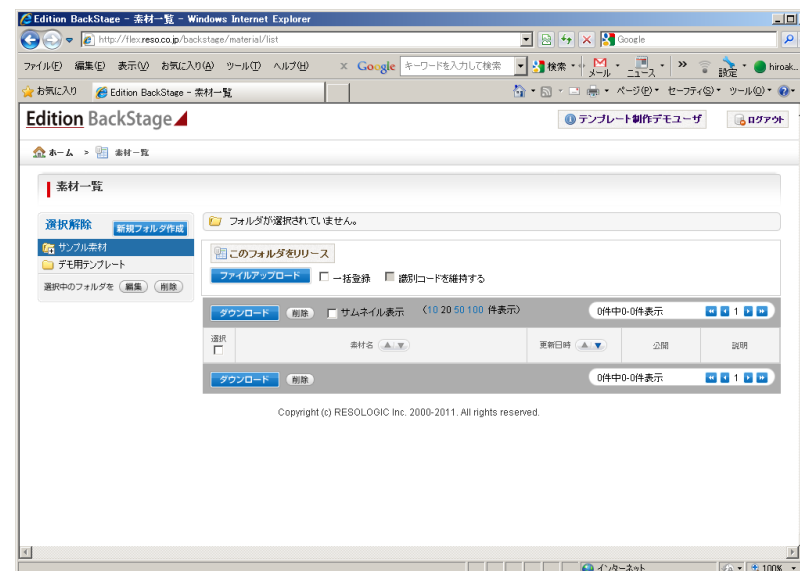
また、カセットが、テンプレートに属すると覚えておいてください。

このフォルダ構造は、ログインユーザ個々に提供されているものですので、自由に追加、削除ができます。



テンプレート一覧画面

素材一覧画面



5 素材一覧で素材をアップロードする。

■ 素材一覧画面では、右図の①にフォルダ階層が表示され、任意のフォルダをクリックすると、フォルダが選択状態(青で反転)になり、その中の素材が一覧で表示されます。

■ 右図の③で、「サムネイルの表示」をチェックすると、素材のサムネイルが表示されます。

■ ①の、フォルダ階層の上下にある「新規フォルダ作成」「編集」「削除」は、選択したフォルダに対して行われます。フォルダの選択を解除するには②の「選択解除」をクリックしてください。

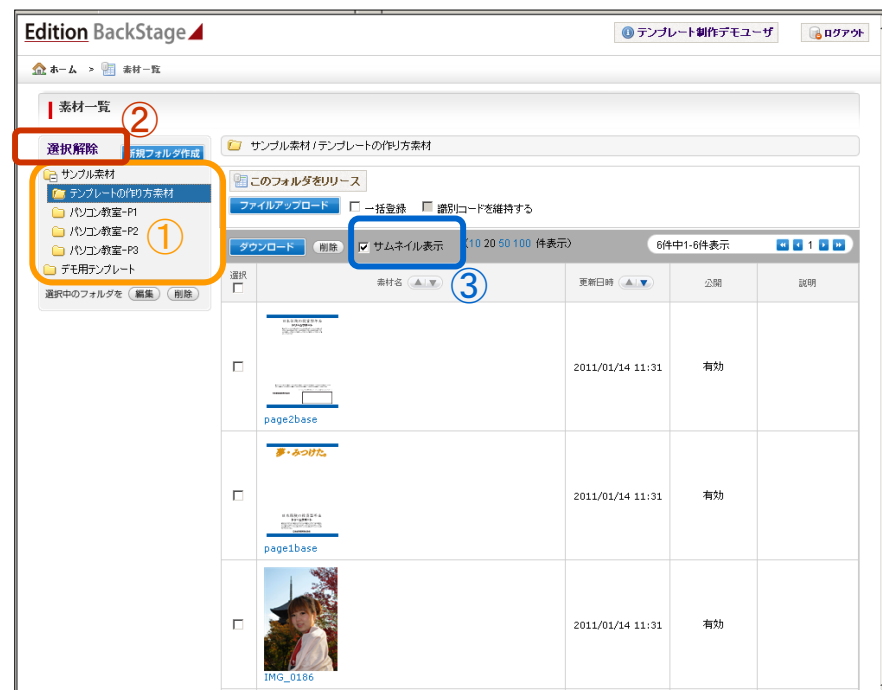
解除した状態で「新規フォルダ作成」をクリックすると、ルート(最上階層)にフォルダを作成することになります。

■ ファイル一覧の上の、「ファイルアップロード」も、①で選択したフォルダにファイルをアップロードします。

■ ファイルアップロードをクリックすると、右下図のようにフォルダ選択ダイアログが表示されますので、対象となる素材を保存してあるフォルダを選択し、対象のファイルを選択してください。

IE (Internet Explorer)をお使いの場合は、図のように複数のファイルが同時に選択できます。

■ 素材は、決まったどこかに無ければならないという制約はありませんので、ご自身の運用方法に合わせて、自由にフォルダを作成してアップロードしてください。



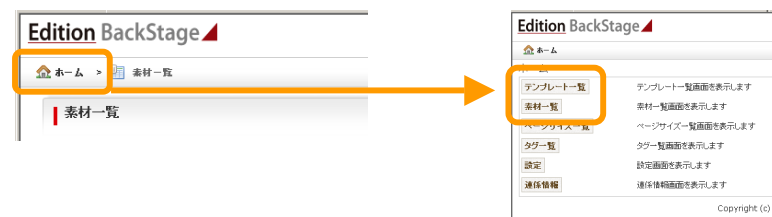
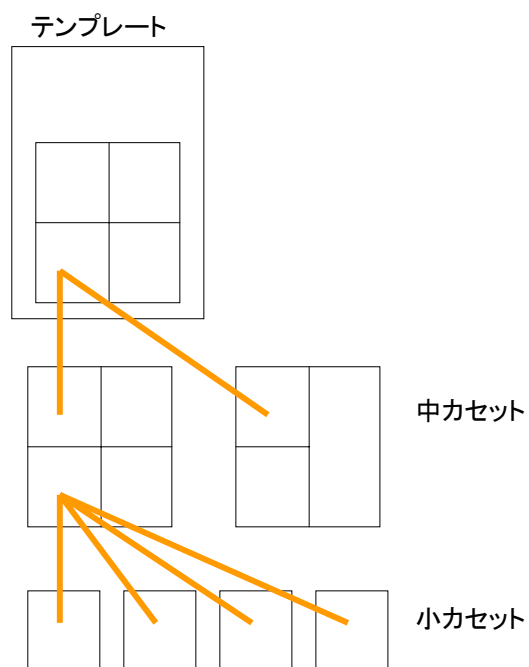
6 テンプレート一覧画面

■ BackStageでは、素材一覧とテンプレート一覧を頻繁に行き来していただくこととなりますが、その場合は右上図の「ホーム」をクリックして表示されるメニューをご利用ください。

■ テンプレートもまた、任意のフォルダを作成して管理いただけます。

■ テンプレートは、保存時の指定により、右中段図のような「テンプレート」と、右下図のような「カセット」として保存することができます。

■ カセットとは、テンプレートの中に入れ替えられるパーツであり、それ自身も編集可能であるという特徴があります。また、カセットの中に、さらにカセットを置くといった階層構造(入れ子)にすることができます。



7 ゼロからのテンプレートの作成

■ テンプレート一覧画面で、テンプレートを作成したいフォルダを選択した状態で、右上図の「テンプレート作成」をクリックします。

■ 右中段図でテンプレートの名前(任意)を入力して「追加」をクリックします。ここでカセット識別フラグをオンにすることで、カセットとして作成することになります。ここではテンプレートを作成するのでオフにします。

■ 「追加」のクリックで、ページのないテンプレートが生成されますので、右下図でページの追加をクリックします。

■ 下図で、ページ名、用紙幅、用紙高さ、上下左右の余白を入力して「追加」をクリックします。用紙幅と用紙高さは、いわゆる仕上がりサイズです。トンボ、塗り足しは余白のエリアになります。illustrator上のレイアウトとあわせ、ここでは幅210mm、高さ297mm、各余白を20mmに設定します。

■ Edition Flexは最終的に編集したデータをPDFで出力できますが、余白を含めたPDFも、仕上がりサイズでカットしたPDFも両方出力可能です。

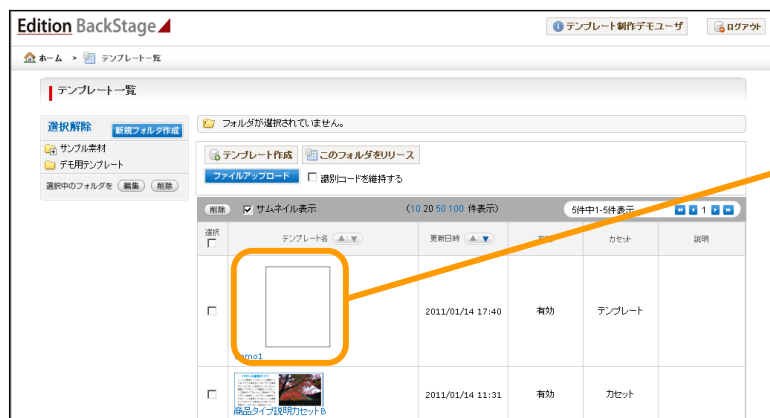
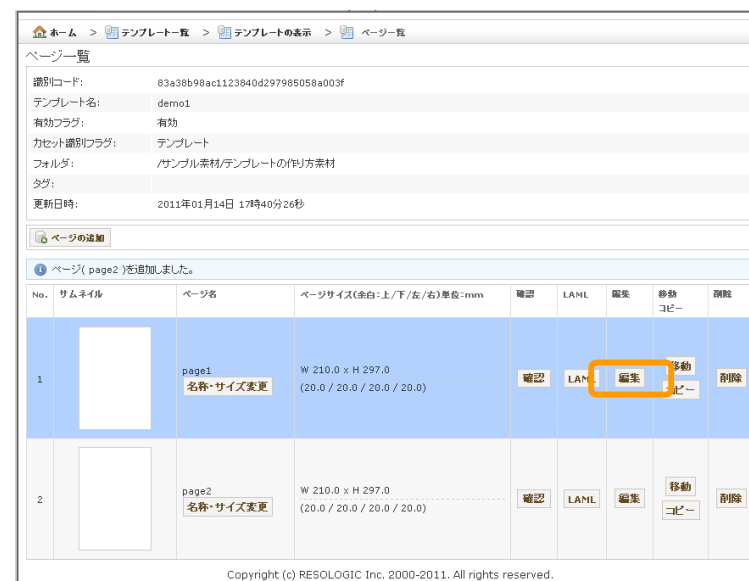
■ このサンプルのテンプレートは、表裏同じサイズで2ページですので、引き続き2ページ目も作成してください。



8 編集開始

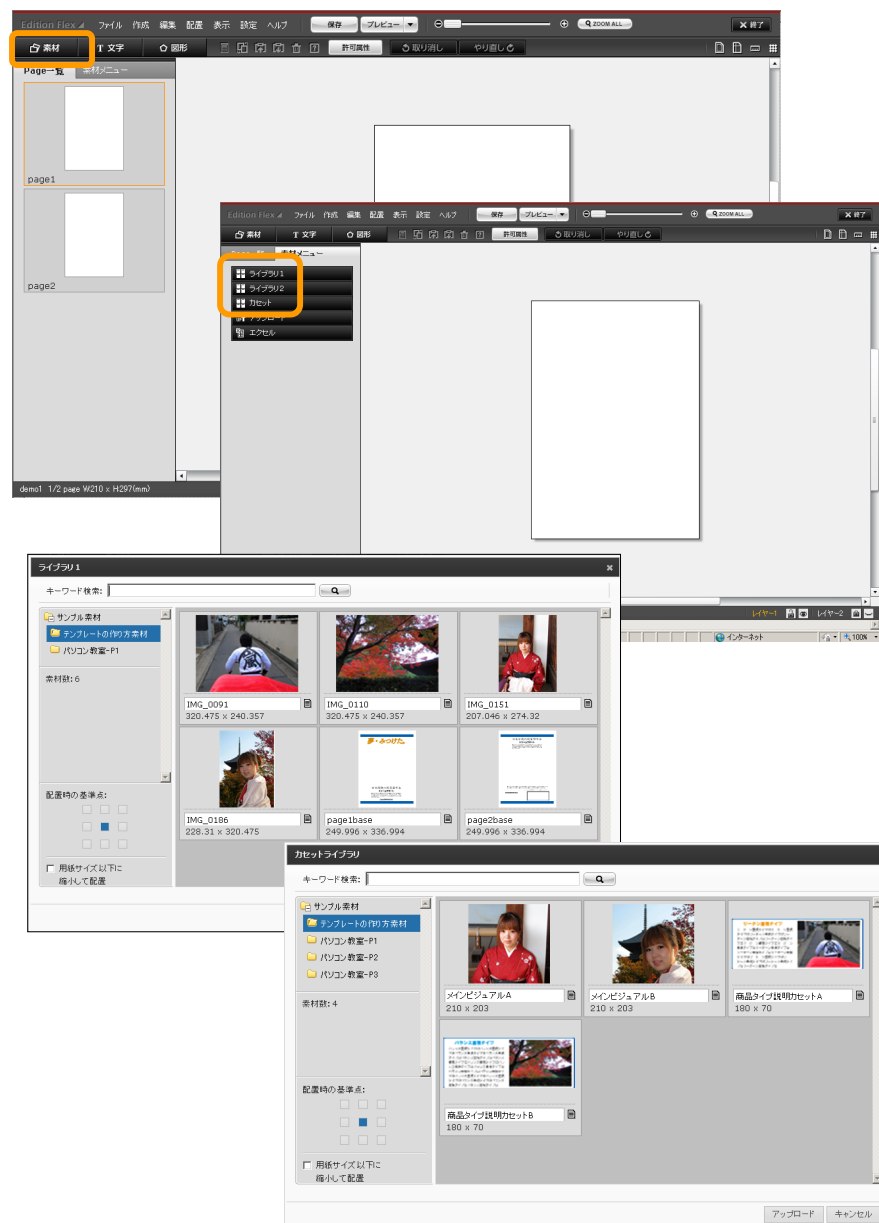
■ ページ作成直後は、右図の状態ですので、「編集」をクリックして編集画面を表示します。

■ 一度テンプレート一覧に戻った場合は、下図のようにサムネイル(最初は白紙なので白い)をクリックして右下図の「レイアウト編集」をクリックして、編集画面を表示してください。



9 素材の確認

- 新規に編集画面を表示したら、まずは、どのような素材やカセットが利用可能なのか？確認することをお勧めします。
- 編集画面で、右上図の「素材」ボタンをクリックして、右中段図の素材メニューから、「ライブラリ」や「カセット」をクリックして、右下図のダイアログを表示し、フォルダの中身を確認します。
- ライブラリには、画像素材やイラスト素材が表示されます。
- カセットには、カセットとして登録した素材が表示されます。
- ライブラリ素材もカセット素材も、新規に編集エリア(テンプレート)上に配置することができます。
- もし素材の確認で、必要な素材が登録されていなかった場合には、一旦「終了」で編集画面を閉じた上で、素材一覧画面から素材の登録を行なう必要があります。
- ライブラリ等のダイアログは「キャンセル」ボタンで閉じます。



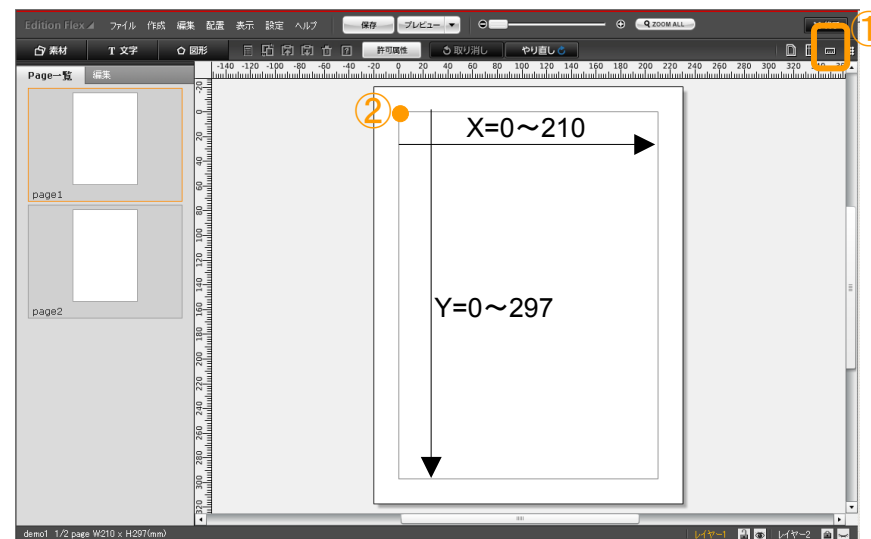
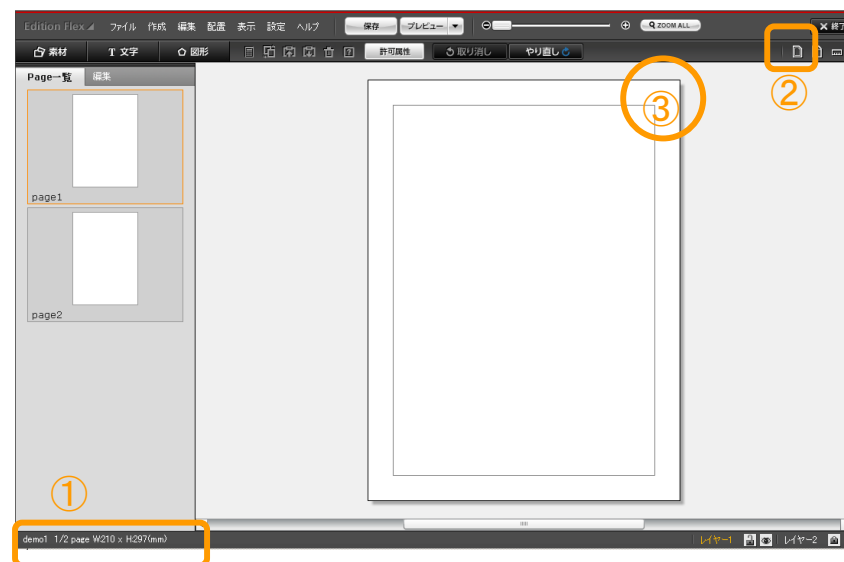
10 ページサイズと余白の確認

■ 編集画面では、右上図の①の部分に、編集中のページの、仕上がりサイズが表示されますので確認してください。

■ 右上図②の「余白表示」アイコンのクリックで、編集エリアに、テンプレートの余白部分も含めて表示され、③のように仕上がりサイズの矩形が表示されます。このアイコンは、クリックする度に、余白の表示と非表示が切り替わります。この例では余白表示の状態の説明を進めます。

■ 右下図①の「ルーラー」アイコンのクリックで、編集エリアの外側にルーラー(目盛)が表示されます。

■ 目盛を見ていただくとわかるとおり、右下図②の仕上がり矩形の、左上の角を原点として、Xは右方向に増加し、Yは下方向に増加します。一般的な座標系と異なる点に留意してください。



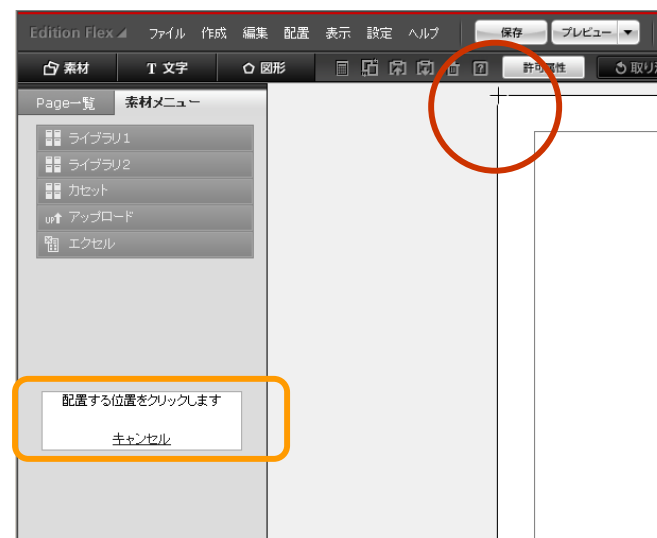
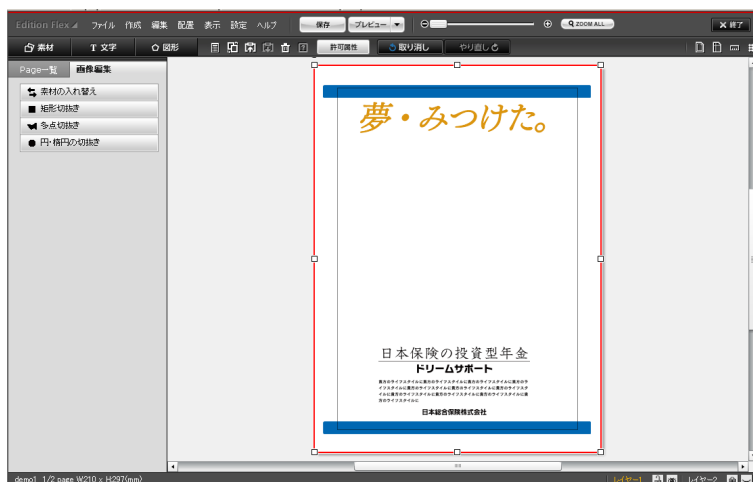
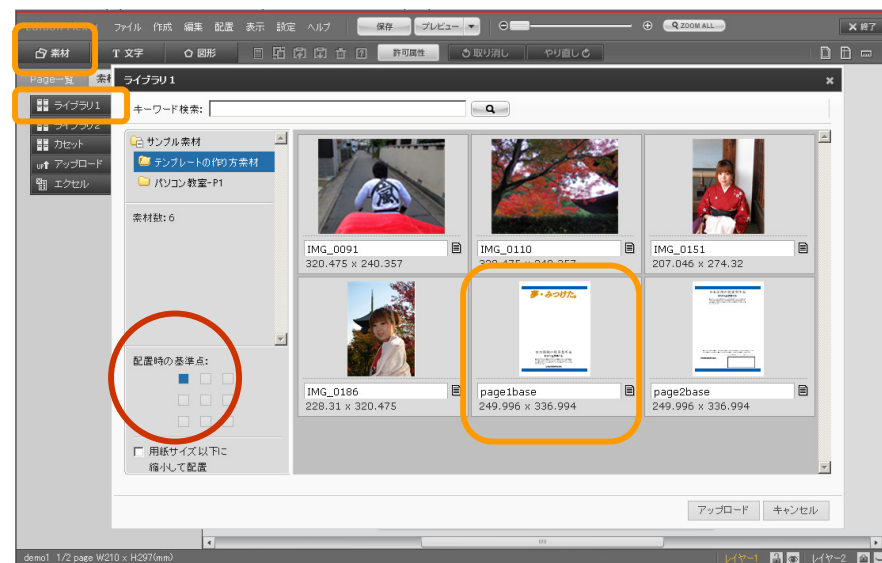
11 素材の配置

■ 「素材」メニューから「ライブラリ」をクリックし、ライブラリダイアログで表面の背景素材を探します。

■ 素材を配置する場合は、右上図の赤丸内にある「配置時の基準点」を意識してください。素材を配置する際の基準点を選択できます。

■ この素材は、余白を含むテンプレートのサイズとほぼ同じです。基準点を左上にして、右下図のように、余白も含む一番左上の角にカーソルをおいて左クリックして配置します。

■ 下図のように配置されますが、カーソルの位置がずれたかもしれません。しかし、それは精密に修正可能です。



12 素材の正確なサイズと配置

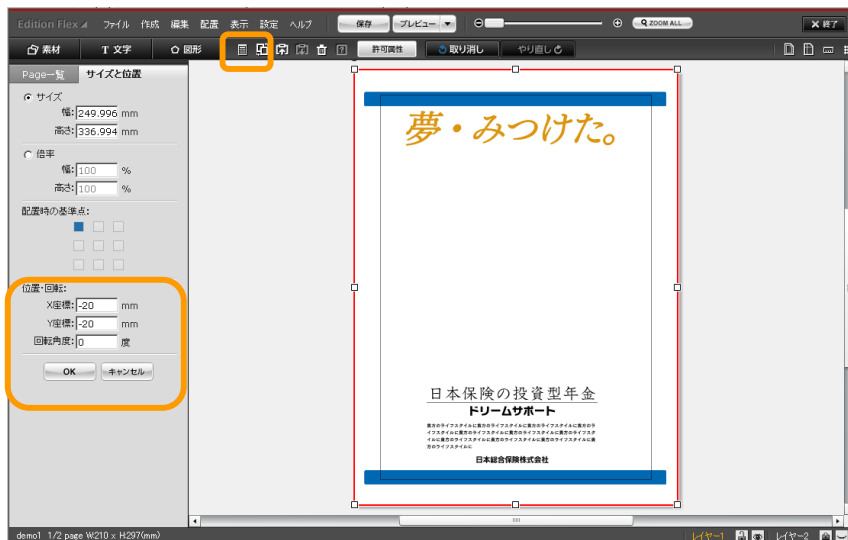
■ 素材は、配置直後や、素材をクリックすると、下図のようにハイライトします。この状態で、素材の上で左クリックしたままドラッグすると移動できます。また、赤い枠上の9個のコントロールポイントのドラッグで、変形することができます。(移動や変形できないように制限することもできます。)

■ 素材の自由な移動や変形ではなく、精密に配置やサイズをコントロールしたい場合は、下図の電卓マークの「サイズと配置」アイコンをクリックします。選択した素材の現在のサイズと基準点の位置がサイドパネルに表示されます。

■ X座標、Y座標が-20mmでない場合は、-20に編集して「OK」のクリックで移動します。

■ 素材のサイズもこの画面で精密に編集することができます。

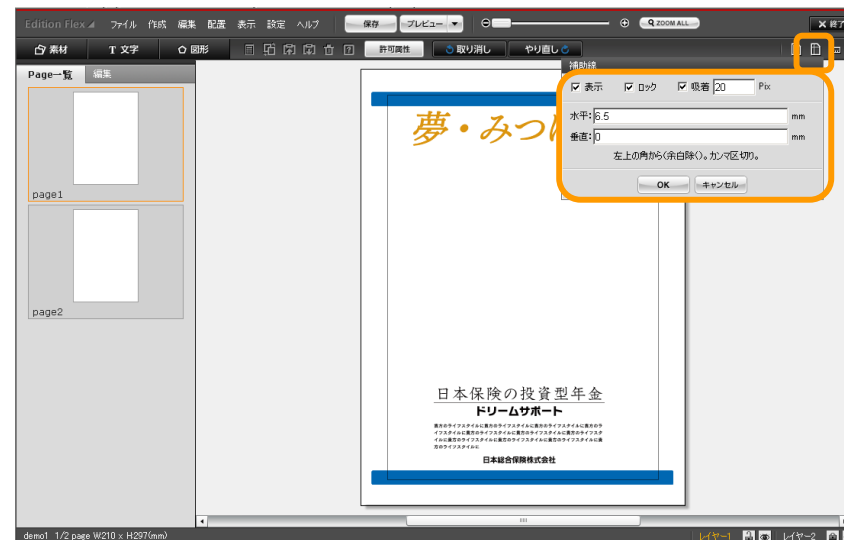
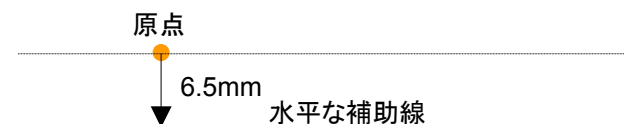
■ 基準点の変更も、正確なレイアウトには欠かせませんので、この電卓アイコンを覚えてください。



13 補助線の作成

■ メインビジュアルを正確に配置する手掛かりとして、補助線を作成します。補助線の上や補助線の交点にカーソルが吸着して、精密に配置することができます。

■ 下図の「補助線」アイコンをクリックして表示されるダイアログで、「水平:」に6.5「垂直:」に0を入力して「OK」をクリックします。これは、仕上がりサイズの原点(左上の角)からの夫々の補助線の距離になります。



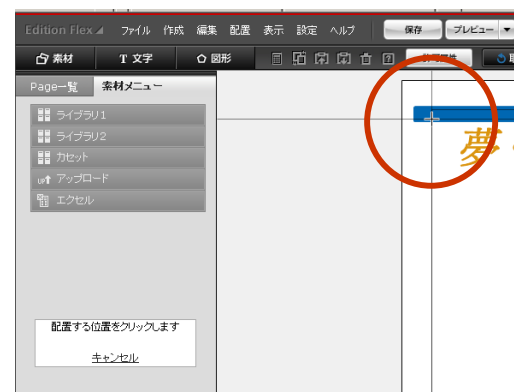
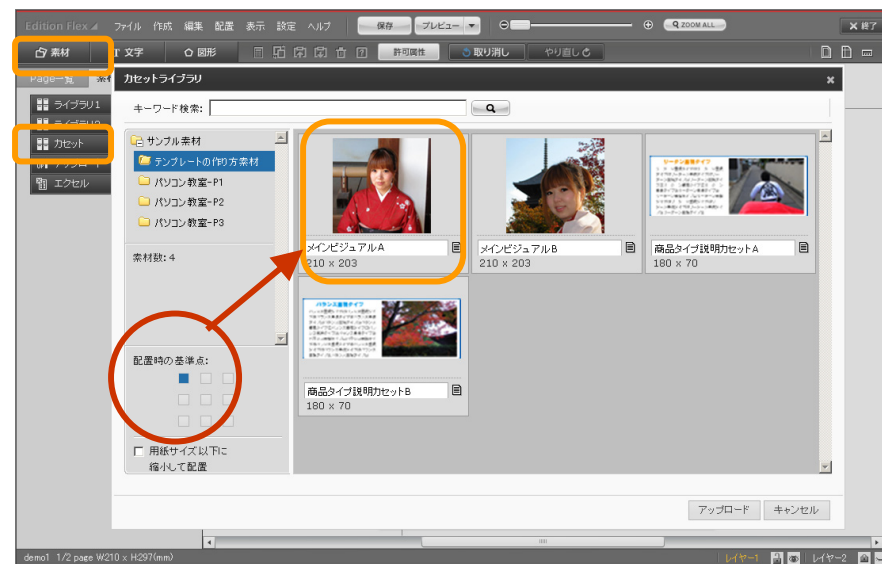
14 カセットの配置

■ カセットを作成する前に、サンプルのカセットを配置してみましょう。
右上図の「素材」→「カセット」をクリックして、「メインビジュアル」のカセットを探します。

■ 右上図の、配置時の基準点を左上にして、カセットのサムネイル(画像)をクリックします。

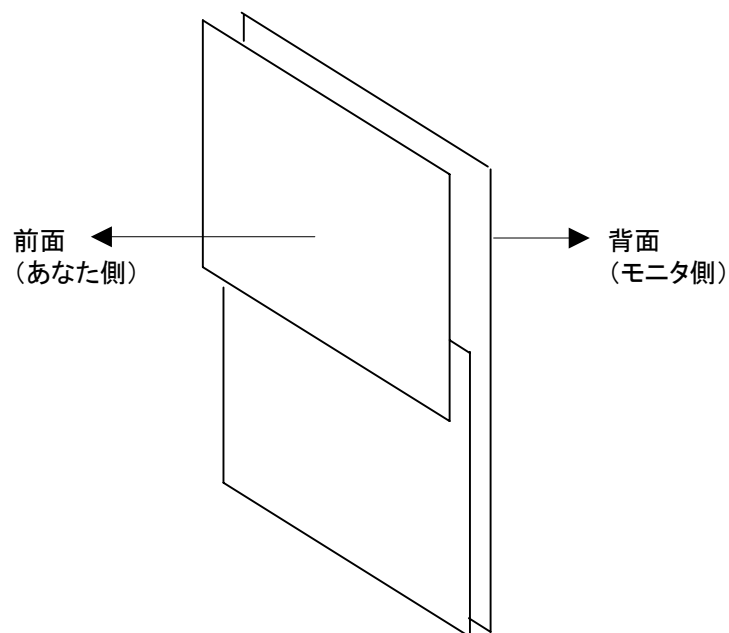
■ 右下図のように、補助線があれば、補助線の交点付近にカーソルを移動すると吸着される感触があると思いますので、左クリックして配置します。

■ 配置後は下図のようにカセットが前面に配置され、ハイライト(選択状態)になっています。



15 重なり順の変更

- テンプレート上に複数の素材を配置する際に、それらが重なった場合の順番を変更します。
- 下図のイメージのように、モニターの内側の方向が背面、モニターの手前の方向を前面となります。
- 右上図で、メインビジュアルを選択(ハイライト)した状態で「重なり調整」アイコンをクリックして、操作パネルで「最背面へ」をクリックします。
- 右下図のようにメインビジュアルが背面に移動し、キャッチコピーが現れます。
- 重なり順編集のサイドパネルを「閉じる」のクリックで閉じてください。



16 カセットの入替

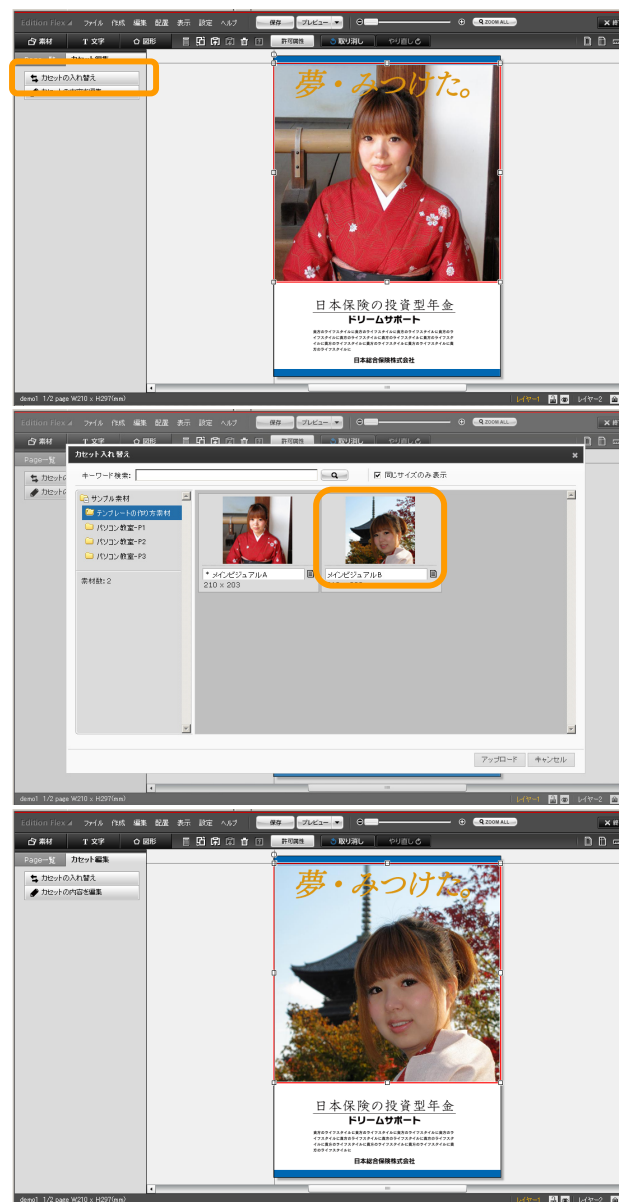
■ カセットの入替をテストします。右上図のメインビジュアルのカセットを選択した状態で、「カセットの入れ替え」をクリックします。

※メインビジュアルの選択状態が解除されて、背景素材しか選択できない状態でしたら、この章を飛ばして17にお進みください。

■ 右中段図のように、カセットの存在するフォルダが表示され、他のカセットがあれば、サムネイルが表示されます。今のカセットの名称の前には、※が表示されています。別のカセットのサムネイルをクリックします。

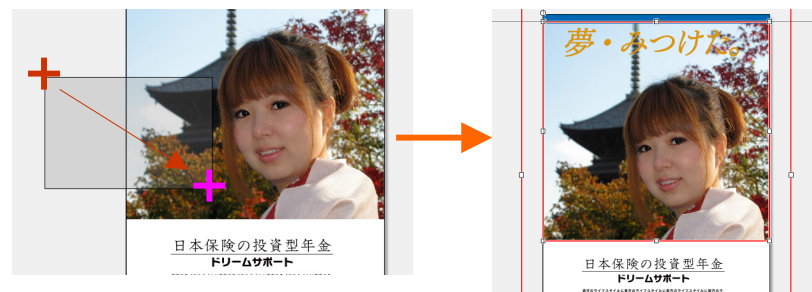
■ 右下図のようにカセットが入れ替わりました。

■ この例のように、カセットの入れ替え候補は同じフォルダにを集めて管理しておきます。



17 許可属性の編集

- 許可属性とは、テンプレートを公開して、エンドユーザに編集いただく際に、どこをどこまで編集いただくかを設定する機能です。
- メインビジュアルは入替だけを可能とし、背景は操作できなくします。
- メインビジュアルをクリックしますと、右上図のように、背景が選択されてしまいます。背面にある要素の選択は少々手間がかかります。
- 右中段図のように、背景も、メインビジュアルとも重なるような位置でカーソルをクリックしながら移動してリリースします。(赤い十字でクリックしてそのままピンクの十字まで移動して放します。)すると、重なった要素全てが選択されます。
- 背景だけを選択状態から除外するために、右下図のように、Shiftキーを押しながら、図の赤い十字のあたりをクリックすると、背景が選択状態から解除され水色になります。(Shift+クリックは非選択の操作です。)
- メインビジュアルのみが選択された状態で、右上図の「許可属性」をクリックし、下図のように「編集可能」以外の属性:をオフにして「OK」をクリックします。



Shiftキーを
押しながらクリック

18 許可属性の確認

■ 右上図のように、背景素材を選択した状態で「許可属性」ボタンをクリックして、許可属性の「ロック:」をチェックして「OK」ボタンをクリックします。

■ この例の背景素材のように、ユーザに操作させたくない場合は、許可属性でロックをオンにします。

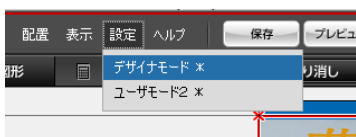
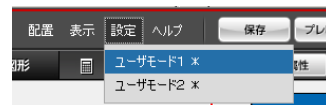
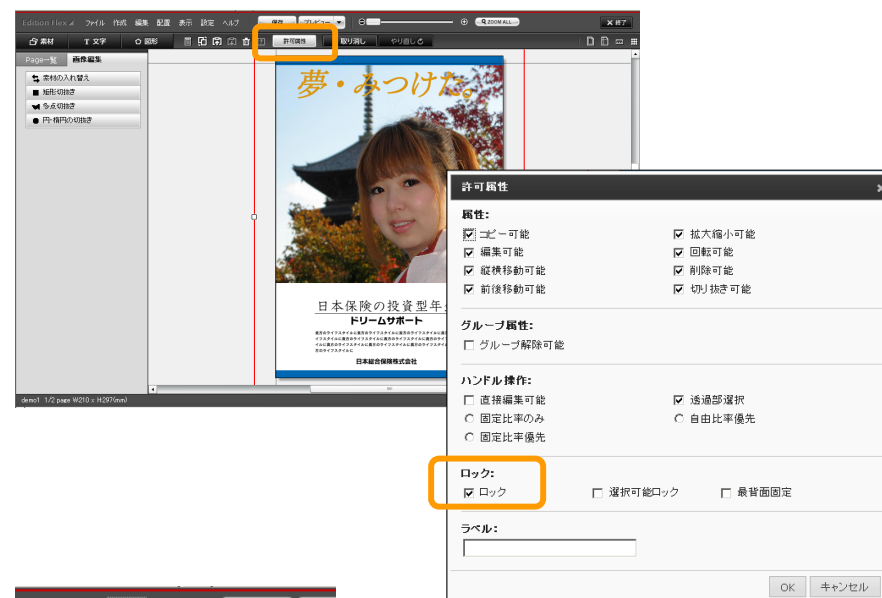
■ 「許可属性」ボタンが表示されている場合は、デザイナーモードという状態ですが、この状態では「許可属性」のセットはできませんが、実際のユーザモードで「許可属性」が、どのように効いているか試すことはできません。

■ デザイナーモードをユーザモードに切り替えて試すには、右中段図のように「設定」メニューを選択して、デザイナーモード以外のユーザモードに切り替えてください。

■ ユーザモードになると、右下図のように「許可属性」ボタンが消えます。

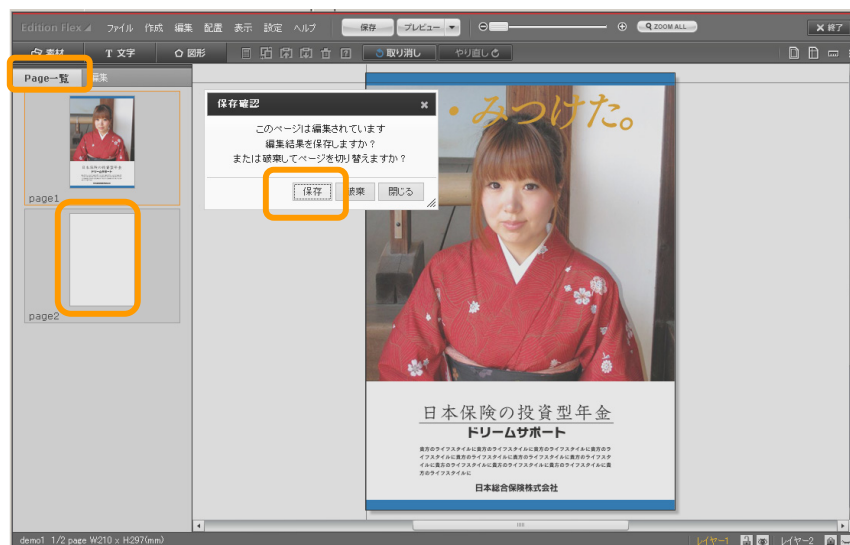
■ 背景画像は全く選択できなくなり、メインビジュアルは赤枠の上のコントロールポイントが消えているはずですが、メインビジュアルAとの入れ換えを試してください。

■ 許可属性を確認したら、ユーザモードを下図のように、デザイナーモードに戻してください。



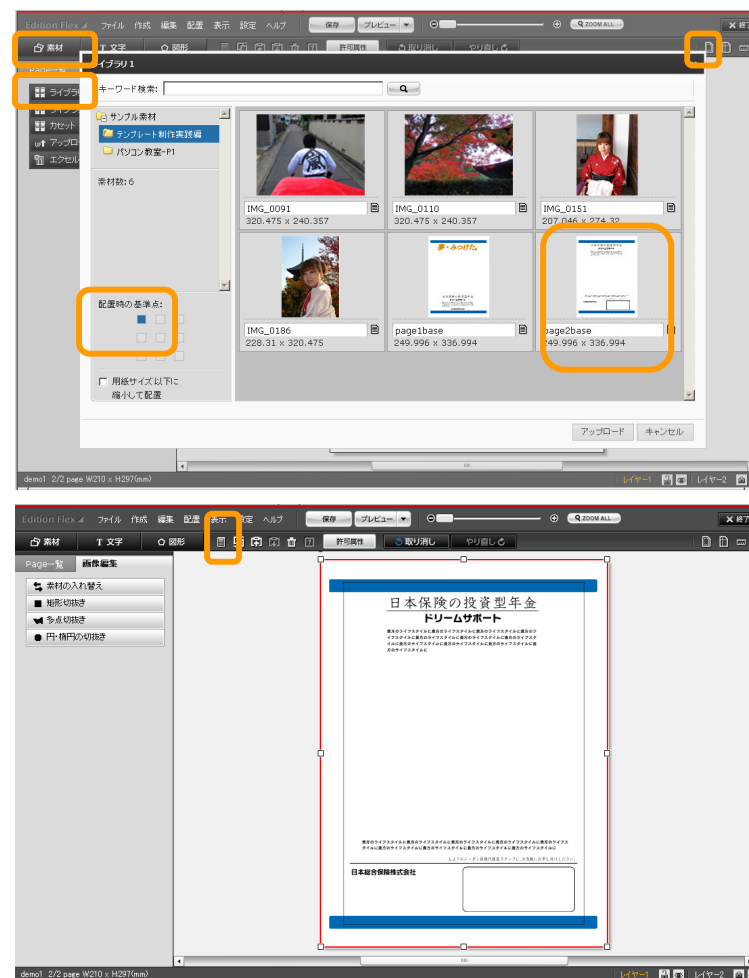
19 編集ページの移動

- 編集するページを移動するには、下図の「ページ一覧」タブをクリックして各ページのサムネイル一覧を表示してください。
- 編集したいページのサムネイルをクリックすると、下図のように、現在のページの保存確認ダイアログが表示されますので「保存」をクリックしてください。



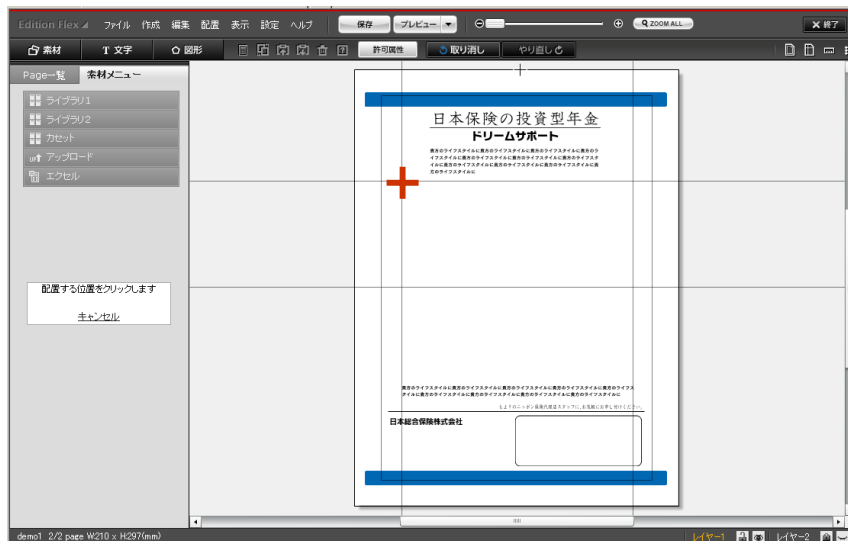
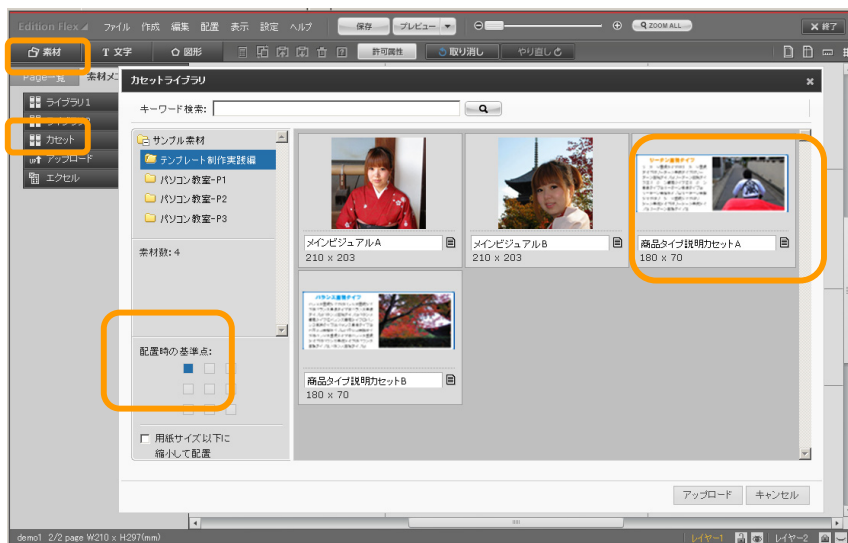
20 裏面の編集

- 表面で行ったテクニックを使って裏面に背景素材を配置します。
- 余白表示モードにすることで、背景素材の配置の基準点を左上にすることを忘れないでください。
- 配置後は「サイズと配置」アイコンをクリックして正確な配置を確認ください。



22 カセットの配置

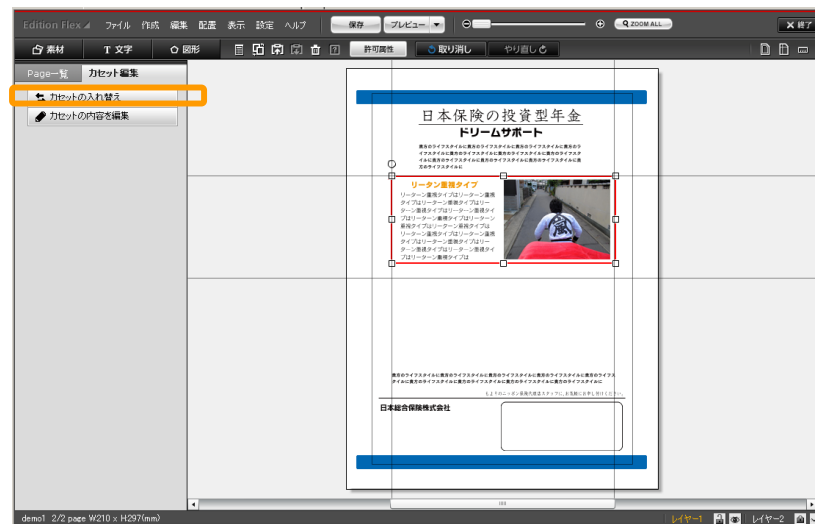
- 下図のように、「素材」→「カセット」から「商品タイプ説明カセット」を探し、「配置時の基準点:」を左上にしてから、サムネイルをクリックしてください。下図の赤い十字部分の、補助線の交点に吸着させます。



23 カセットの入替え

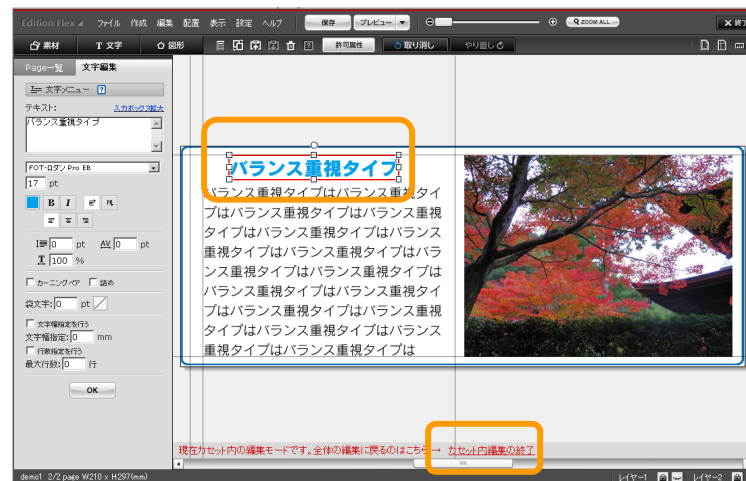
- 配置したカセットを選択した状態で、下図の「カセットの入れ替え」をクリックしてください。

- 表示されたダイアログで、別のカセットを探して入れ替えてみます。



23 カセット内の編集

- カセットの入れ替えではなく、カセットそのものの編集をしてみましょう。
- 右上図のように、カセットを選択した状態で、「カセットの内容を編集」をクリックします。
- 右下図のように、カセットが画面一杯に表示されて、カセット内の編集モードになります。
- カセット内に編集可能な要素があれば、その要素を選択することで編集可能となります。右下図の例では、「バランス重視タイプ」という文字部分を選択し、編集可能になっています。
- カセットの内容編集を終了して、元のカセットが配置されたテンプレート全体に戻るには、右下図の「カセット内編集の終了」をクリックしてください。



24 エクセルの取り込み

■ 右上図のようなエクセルデータを、右下図のように、補助線の矩形箇所
に精密に配置します。

■ そもそもエクセルでは正確なサイズ制御は困難ですので、右上のような
エクセルデータの段階では、セル幅や高さは任意で構いません。

■ Edition Flexは、エクセルデータを解釈して、指示された矩形内に
正確に作図します。

■ 右下図のように「素材」→「エクセル」をクリックして表示されるダイアログ
で「エクセルファイル:」の「参照」ボタンをクリックして、エクセルファイルを選
択します。

■ 下図のように補助線をガイドに 赤十時 ピンクの十字の順に配置位置
をクリックします。

■ エクセル表の内容が更新された場合は、エクセルで表を更新して、配置
済みの表を削除して、再度配置します。

The image illustrates the workflow for embedding an Excel table into a document using Edition Flex. It is divided into three main sections:

- Excel Source:** A screenshot of a Microsoft Excel spreadsheet titled '資料A.xls'. It shows a table with the following data:

特別勘定	費用
バランス型A	年率0.3675%
バランス型A	年率0.3675%
バランス型A	年率0.3675%
バランス型A	年率0.3675%
バランス型A	年率0.3675%
- Document Placement:** A screenshot of the Edition Flex software interface. It shows a document page with a red crosshair indicating the placement of the Excel table. The table is positioned within a rectangular area defined by a red crosshair and a pink crosshair.
- Excel Upload Dialog:** A screenshot of the 'Excelのアップロード' (Upload Excel) dialog box. It shows the following fields:
 - Excelファイル: (Excel File): [参照] (Reference)
 - ExcelファイルURL: (Excel File URL):
 - シート番号: 1 (Sheet Number: 1) - シートを番号で指定(1~)
 - セル範囲: (Cell Range): 省略時自動認識

This screenshot shows the final result of the Excel embedding process. The Excel table is now embedded within the document page. The software interface includes a menu bar with options like 'ファイル', '作成', '編集', '配置', '表示', '設定', 'ヘルプ'. A sidebar on the left contains a '素材メニュー' (Material Menu) with options like 'ライブラリ1', 'ライブラリ2', 'カセット', 'アップロード', and 'エクセル'. The document page shows the embedded Excel table with a red crosshair and a pink crosshair indicating the placement area.

25 カセットを作成する場所

- カセットは、テンプレートを編集しながら作成することはできません。
- テンプレートの編集を保存して終了します。右上図の「保存」をクリックし、次に「終了」をクリックしてください。
(保存したくない場合は「終了」を先にクリックします。)
- 右中段図の画面に遷移したら、「編集結果を保存」を再度クリックします。
- カセットを作成する場所を決めるために、右下図のテンプレート一覧画面に戻ります。
- カセットは基本的にどこにあっても構いませんが、入れ替えるカセット同士は同じフォルダにおいてください。
- カセットもテンプレートも同様の方法で作成を開始します。カセットを作成するフォルダを決めたら、「テンプレートを作成」をクリックします。
- カセットを作成するうえで必要なことは、カセットのサイズを決めておくことです。
- この例ではillustratorでの既存デザインから開始しましたので、illustratorで確認しておきます。

メインビジュアル: w210xh203

商品説明カセット: w180xh70



26 メインビジュアルのカセットを作成開始

■ 右上図のように、テンプレート作成画面で「テンプレート名:」(カセット名)を入力し、「カセット識別フラグ:をオン」にして、「追加」をクリックします。

■ 右中段図のように、ページの無いテンプレートが作成されますので「ページの追加」をクリックします。

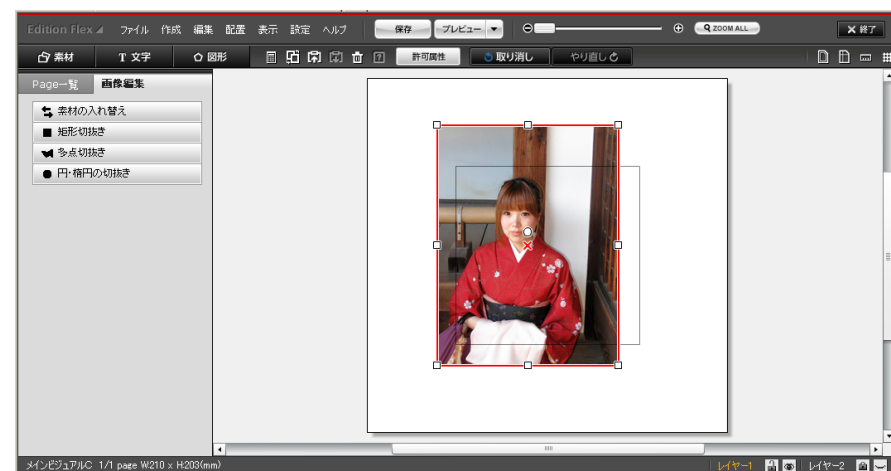
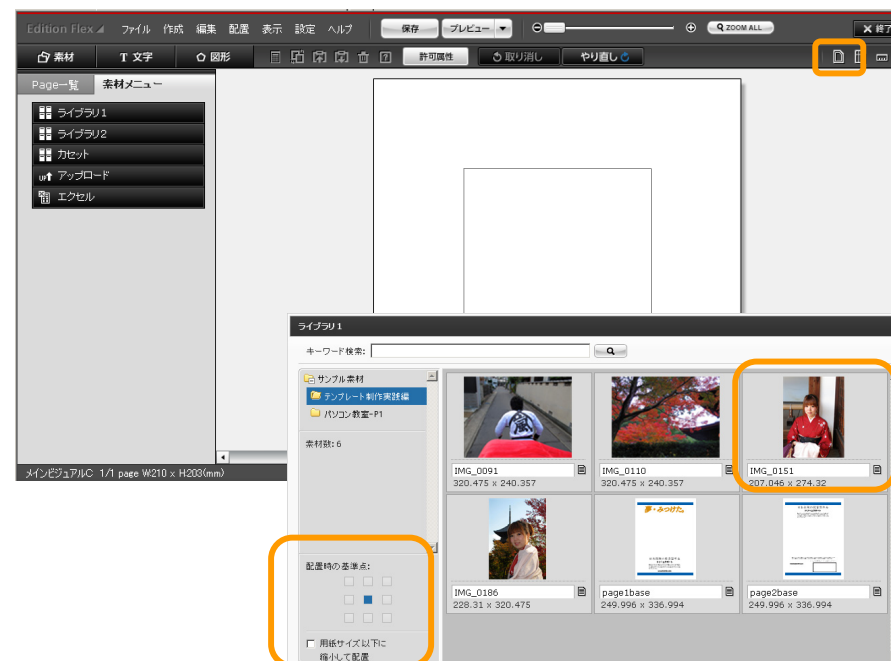
■ 右下図で、把握しておいてページサイズを入力します。この例のメインビジュアルのように、カセットの背景に画像を配置するような場合は、配置作業を容易にするため、余白を大きく取ってください。この例では幅の半分程度の100mmとしました。

■ 下図のようにページが生成されますので、「編集」をクリックして編集画面を表示します。

27 カセットに素材を配置してトリミング

- 背景に画像を配置する場合は、右上図のように余白を表示します。
- 「素材」→「ライブラリ」で、背景となる素材を探します。
- アバウトに配置しますので、右中段図のように、「配置の基準点:」を中央のまま、右下図のように、およその位置に置きます。(画像サイズがカセットの幅に満たないことがわかります。)
- 赤い枠線上のコントロールポイントをドラッグして画像を拡大し、カセットの幅より大きくします。下図のようにカセットの仕上がり線を確認してトリミング位置を検討します。
- 余白アイコンをクリックしてトリミング結果を確認します。

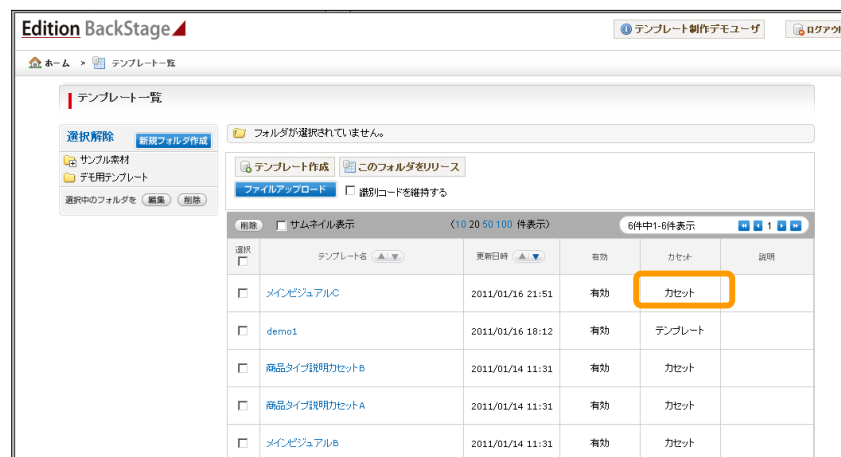
※illustratorでクリッピングした画像をSVGに出力して、この例の背景画像のように、さらに、カセットサイズでクリッピングすることができます。この方法を使うことで、複雑にクリッピングした画像素材を、統一したサイズの入替え素材として使うことができますようになります。



28 カセットの保存

■ カセットもテンプレート同様に、右上図で「保存」→「終了」し、表示される画面で、右中段図のように「編集結果を保存」をクリックします。

■ 保存後は、テンプレート一覧に戻って、右下図のように「カセット」になっているか？同じ入れ替え候補と同じフォルダか否か等を確認してください。



30 文字を含むカセットの作成

- 現在までのテクニックを用いて、テンプレートの新規作成から初めて右図のようなカセットを作成してみてください。
- 各パーツを配置するための補助線の数値を示しておきました。
- 文字の記入は28ページの文字編集パネルの値を参考にしてください。文字の新規入力の場合は、編集パネルで基準点を選択できるようになっていますので、たとえば、タイトルは真ん中の上、説明文は左上などとすれば、補助線をガイドに正確にレイアウトできます。
- 画像は、基準点を右上として配置すれば、収まるサイズになっています。



本マニュアルの画像は 株式会社レゾロジック に無断で使用できません。